



災害に備える 市民病院



①国営木曾三川公園で開催された「海部地方総合防災訓練」の様子 ②トリアージタグ
③④市民病院のDMAT隊員

DMATとは災害派遣医療チームとも呼ばれ、災害時に活動できるように訓練された医師、看護師、業務調整員で構成された医療チームです。津島市民病院でも訓練を受けたDMAT隊員が11名在籍しているという時にはチームとして活動することが可能です。

災害拠点病院とは災害時の救急医療を担うため、耐震構造であること、自家発電や受水槽等で生活基盤が維持できること、ヘリコプターが離発着できることなどの機能を備えた病院です。愛知県内には現在35の災害拠点病院があり、津島海部地域では津島市民病院と弥富市の海南病院の2病院が災害拠点病院に指定されています。

「災害拠点病院」や「DMAT」をご存知ですか。テレビドラマで題材に取り上げられていたこともあり、聞いたことがある方もいるのではないのでしょうか。
地震・台風などの災害や飛行機・列車事故などが起きた場合は多くの傷病者が発生します。こうしたときに対応するのが災害拠点病院やDMATです。

「災害拠点病院」
と
ディーマット
「DMAT」

訓練

市民病院ではいざというときのために、日ごろから訓練を実施しています。

6月には看護師が中心となりトリアージ・災害初期診療訓練を実施しました。災害発生時、誰を最優先に治療するか、誰を待機させることができるかなどを短時間でトリアージし、トリアージした患者をどう初期診療していくかを訓練しました。

秋には全職員を対象とした院内災害訓練を予定しています。普段から災害に備えて、いざというときに地域の皆さんの命を守ることも市民病院の役割であると考えています。



▲市民病院内で行った「トリアージ・災害初期診療訓練」の様子

また、関係機関との連携をした訓練も実施しています。6月には国営木曾三川公園で開催された海部地方総合防災訓練に参加しました。津島市医師会や海部医師会の医師が被災した患者の重症度と緊急度から治療や搬送の優先度を決めるトリアージを行い、津島市民病院DMATが応急処置およびトリアージされた傷病者をヘリポートへ搬送し、自衛隊に引き渡す訓練を実施しました。

今月26日に実施される愛知県・津島市総合防災訓練に参加します。医療救護活動訓練、ライフラインの応急送電・送ガス訓練、ヘリコプターによる搬送訓練等を行います。

連携

実際の災害医療は、市民病院だけでなく何とかなるものではありません。地域の医師会や薬剤師会との連携も必要です。津島市では、災害時には被災した軽症者を治療するための救護所を東小学校と神守小学校に設置することになっています。救護所では地域の診療所などの医師が治療を行い、重症者は市民病院に搬送するというようなお互いの役割分担を進めています。もし、何かあったとき、命の危険が少ない軽症であれば、近くに設営される救護所へ行って応急処置を受けていただきたいと思います。

※トリアージとは

災害・事故現場などで一時に大勢の負傷者が発生したときに、患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定して治療の順番を決めること

この「トリアージタグ」を患者さんに付けます



情報共有

災害時に重要なのは他の医療機関との情報共有であり、特に地震など広域災害では全国的な情報共有が不可欠です。

市民病院では、地震、災害などの緊急時に安定した通信手段を確保できるよう衛星電話を所有しています。また、インターネットを使って全国の災害拠点病院間の情報が共有できるE-MIS（広域災害救急医療情報システム）を活用し、災害時に被災した都道府県を越えて広域的に情報を集約・提供できるように備えています。いつでも誰でも対応できるように、様々な職種の職員によるE-MIS入力訓練も年4回実施しています。

災害医療の目的は、一人でも多くの命を救うことです。そのために、市民病院では多くの準備をしています。しかし、すべての被災者には対応できないのも現実です。自分の身は自分で守ることも災害時には必要です。「備えあれば憂いなし」と言うように、けがをしないよう棚を固定したり、常備薬をすぐ持ち出せるよう置き場所を決めたり、皆さんも自分自身でできることを実践してみてください。

市民病院は、これからも災害時に命を守る拠点としての役割を果たすよう励んでいきます。